

# 守山の「読書文化」の魅力を探る

今回のテーマは「読書文化」。平成30年11月にオープンした、新しい市立図書館と旧図書館との違いや司書の日常業務などを取材しました。

平成30年11月に開館した市立図書館は「本と人が出会い、人と人がつながる知の広場」をコンセプトとしています。

新しい図書館には「本」だけがあるのではなく、文化芸術活動や市民活動を楽しむ施設も併設され、利用者の交流の場にもなっています。

緑豊かな守山らしさを表現する「本の森」「つながる森」と名付けられた空間を、カフェやギャラリーのある木もれび広場がっついていきます。

新型コロナウイルス感染症

大防止のため、ジュニアリポーター4人は2班に分かれて取材に臨みました。

普段は見られない書庫やブックポスの裏側など施設全体を見学したほか、たくさんの方が借りて壊れてしまった本の修理や、貸し出し図書の効果的な返却業務など図書館司書の忙しい日常も教えてもらいました。

ジュニアリポーターが作った「おすすめの一冊」を紹介するPOPは、図書館のコーナーで市民の読書文化推進に一役買っています。



図書館司書 井澤 知恵さん

図書館長 松本 孝子さん

ジュニアリポーターが撮影した写真

インタビューに答えてくれた皆さん



モリヤマジュニアリポーターは守山の魅力について、テーマの検討から現地でのインタビュー、写真撮影、執筆まで行い、小学生リポーター独自の目線で紹介するコーナーです。

①よいよ書庫に潜入②施設の中はいろいろな工夫でいっぱい③本の返却業務を体験④⑤「わたしのおすすめ本」のPOPを制作⑥カウンターでの返却業務⑦欠損がないか調べる⑧本の修理⑨つながる森のスタジオ



## 本の森「すいー」

今村美月 リポーター



「本の森」には、いろんな人に来てもらうための工夫がありました。絵本のコーナーは子どもが本を取りやすいように棚が低くなっていたり、子ども用トイレや授乳室が設置されていたりしてすごいなあ、と思いました。小さな子どもも「おはなしのいえ」で絵本に親しむことができます。

本の森は、本と人が出会い、人と人がつながる知の広場だということを知り、図書館って本があるだけじゃないんだなと素晴らしいと感じました。

## 読書文化を広げるためのいろいろな活動

三觜万里子 リポーター

読書文化を広げるために図書館の職員がされていることは、主に二つあります。

一つ目は、図書館内の「おはなしのいえ」というところで行っている、おはなし会です。子ども向けに、\*毎日開催しているそうです。

二つ目は、中高生サポーターや職員が制作しているPOPコーナーです。私も作ってみました。文章を書くのは大変でした。

多くの人が本に親しむための工夫がたくさんあって、とても驚きました。

※現在は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため週一回開催



## 新しい図書館について

東蓮碧 リポーター

図書館を入つてすぐにカフェがあります。左へ行くと会議室やスタジオ、集談室があります。

本の森に行くとおはなしのいえがあり、小さい子が読む本があつて親子で楽しめます。2階へ行くと中高生たちが勉強できるコーナーやPOPが置かれている棚があり、近くには難しい本も、ちょっとした漫画もあります。本だけじゃない、いろいろな場所があつて驚きました。

スタジオにはドラムなどの楽器が置いていました。演奏してみたいなあと思いました。



## 司書さんのお仕事

川那辺結心 リポーター

私は、図書館に行つて司書さんの仕事ってこんなに面白のだと知りました。

図書館は広いから、カウンターの中にいる人だけで仕事をするのは大変じゃないかなと思いました。けれど仕事の種類ごとに役割分担されていました。例えば本を本棚に戻す人もいれば、図書館の外にあるブックポストに本を取りに行く人もいます。私はカウンターで返却の仕事を体験し、楽しかったです。本をボタン一つで返せてすごいなと思いました。



①



②



③





伝わるというな、  
私たちが感じた思い



1月19日、モリヤマジュニアリポーターはミッションを修了して感謝状をもらいました

「モリヤマジュニアリポーター」は、新鮮な感性を持つ小学生の目線で守山の魅力を発信してもらおうとともに、子どもたち自身にも守山をもっと好きになってもらうための企画です。また、企画、取材、執筆、編集までペーシ制作に参加することで、普段できない体験や学びにつなげてほしいと考えました。

モリヤマジュニアリポーターに応募してくれた児童4人は、紙面制作のために、取材本番のインタビューや体当たり体験だけでなく、取材の勉強や準備、執筆、編集など裏方の作業にも積極的に関わりました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2班に分かれて取材し、最後は一緒に記事を書き上げて感謝状を受け取りました。

1年間の活動

- 顔合わせ  
アイデア出しゲーム
- 勉強会  
座学・模擬取材



- 市立図書館での勉強会(下見)
- 市立図書館での取材本番  
記事執筆は宿題
- 編集会議  
読み合わせ・校正・推敲
- 修了式(1年の振り返り)
- 2月15日号掲載



広報担当者の  
つぶやき



今年は1回だけになってしまったけれど、取材や執筆など、守山の魅力を伝えるために頑張ってくれました。取材のメモ量は大人顔負けですごかったです。

ジュニアリポーターの活動を振り返って



今村 美月さん

●応募の動機は？

今村さん 学校の社会科で新聞の記事や取材について勉強したからです。作文は好きじゃないけど、面白そうだと思うって応募しました。

川那辺さん 作文嫌いが直ればよいな、と思っって応募しました。

●取材の感想は？

今村さん 違う自分になれた気がする。いい経験になった。

三觜さん 図書館を利用していただけでは分からない、施設の中を見れた。取材して図書館をもっと好きになれた。作文もちょっとうまくなれたかな。

東さん カメラがうまく撮れ



東 蓮碧さん



三觜 万里子さん

ているか不安だったけれど、ちゃんと撮れてよかった。最初は作文が嫌だったけれど、やってみたら簡単に200字書いてよかった。

川那辺さん インタビューの時はちゃんと質問できているか、聞き忘れたことはないかな不安だった。

●今後取材してみたいと思う施設や要望があったら、今後の参考に教えてください。

三觜さん ジュニアリポーターの記念になるようなお土産がほしい。

東さん 機会があれば、またやってみよう。取材では普段はできないことをしてみたい。



川那辺 結心さん